

令和3年度

施政方針

企画調整課 ☎ 862・9937

全文は市ホームページに掲載しています。



はじめに

はいたい ぐすーよー
ちゅううがなびら。

私たちは今、大きな試練の渦中にあります。新型コロナウイルスの感染拡大により、日常生活が一変しました。

そのような中、本市は市制施行100周年を迎えます。今こそ、心をひとつに、力を合わせ、この困難を乗り越えていかなければなりません。

記念すべき節目の年を、逆境に

立ち向かい未来を創る挑戦の年として全力を尽くす覚悟です。

市民の皆様並びに本市議会の皆様におかれましては、より良い市政の実現に向け、格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、令和3年度の施政方針と予算案、主要事業をあわせてご説明申し上げます。

ゆたさるぐとう
うにげーさびら。

新型コロナウイルス対策

ウィズコロナを生きる

新型コロナウイルス感染症は、感染者数の増加に歯止めがかからず、依然として厳しい状況にあります。

安心できる日常を取り戻すためには、私たち一人ひとりが、自身はもちろんのこと、大事な家族や友人、隣人の命を守るための強い思いで感染防止に努めていくことが重要になります。

感染リスクに直面しながら、医療現場の最前線で奮闘されている皆様をはじめ、日常生活を支えるすべての皆様の尽力に対し、感謝の念に堪えません。市民の安全・安心、暮らしを守る市長としての責任を果たしていくという気持ちを強くしています。

さて、本市では、「命を守る」「経済をつなぐ」「日常をつくる」という基本方針のもと、感染の各段階に応じた対策を幅広く実施してまいりました。

未だ収束の兆しが見えず、今後も厳しい状況が想定される中、幅広いニーズを捉えた切れない対策を講じていく必要があります。引き続き、適宜、適切な対策を講じてまいります。

そして、いよいよワクチンの接種が始まります。本市では、「新型コロナウイルスワクチン接種推進室」をいち早く立ち上げ、関係機関との調整やコールセンターの設置など、円滑な予防接種に向けた準備を進めております。希望する全ての皆様が、安心かつ速やかに接種できるよう全力を尽くしてまいります。



子ども・子育て

未来を生きる子どもたちのために

子どもたちの屈託のない笑顔には本当に心が癒されます。その笑顔が未来へつなげていくためにも、私たち大人は、子どもたちの健全な成長のために力を注いでいかなければなりません。

新型コロナウイルスは、子どもたちの生活や子育て環境に大きな影響を与えています。これまで抱えてきた様々な課題の深刻化、潜在的課題の表面化などに、丁寧に向き合っていかなければなりません。

子どもの貧困問題は、感染症のしわ寄せを大きく受けています。

国連児童基金（Unicef）は、ウイルス流行による子どもの経済的影響を分析した報告書の中で、少なくとも今後5年間は子どもの貧困が増し、これまでの水準を上回る状況が続くと予想しています。

どのような状況にあっても、子どもの可能性と選択肢に制約があってはなりません。

今後とも家庭や企業、NPOなど多様な主体の皆様と手を取り合い、課題の解決を図っていく必要があります。

こどもは**那覇の宝**、**私たちの希望**です。すべての子どもたちが、未来に希望を持てる環境を整えてまいります。



経済・まちづくり

輝く地域資源を磨く

好調に推移していた沖縄経済は今、大きな打撃を受けています。観光客数は激減し、国際通りをはじめ市内の観光スポットから賑わいが失われる事態となりました。

地域経済を担う事業者の皆様を支えていくため、ニーズを的確に捉え、国や県とも連携を図りながら、引き続き事業継続のための支援を適切に講じてまいります。

コロナ禍の今、私たちには何が求められているでしょうか。経済の専門家は、回復する力「レジリエンス」を示し、危機から起き上がるための底力を備えておく必要性を提起しています。

ありがたいことに本市は、民間調査によるランキングにおいて、住みたいまち、魅力あるまちとして、上位入りを果たしています。

迎恩の心や伝統文化、何物にも代え難い自然、地理的優位性など、独自の輝きが魅力を上げているものだと思います。そして独自の輝きこそが、「レジリエンス」の源ではないでしょうか。

改めて地域の魅力を再認識し、アフターコロナ時代に必要な変化と融合していくことが、持続的な経済発展につながるものと考えております。

脈々と受け継がれてきた**地域資源**という財産を常に磨き上げ、訪れてみたい、住んでみたいと思われるような、**選ばれるまちづくり**に取り組んでまいります。

平和

未来へつなぐ平和の心

いつまでも平和な毎日でありたい。誰もがそう願うと思います。

戦後75年の節目の年であった昨年は、沖縄戦をはじめ、先の大戦で犠牲となった人々のみ霊を慰めるとともに、平和を願う気持ちにより高まった年でした。

時の経過とともに沖縄戦の体験者が少なくなり、歴史の風化が危惧されています。次の世代に戦争の実相と教訓を伝えてきた語り部の訃報に接しますと、本当に胸が詰まります。同時に、

平和のバトンを次世代へつないでいく決意を強くしております。記憶を伝える体験者が少なくなる中、「**物言わぬ証言**」となる戦争遺構の重要性も増しています。

旧日本軍第32軍司令部壕は、沖縄戦の実相を現代に示す貴重な戦跡であり、恒久平和への気持ちを育む、平和教育に欠かせない場所です。

保存継承に向けて、今後も沖縄県と連携して取り組んでまいります。平和こそが発展の礎です。すべての人々が戦争の不条理や愚かさを知り、「**命どう宝**」の思いを胸に刻むことを願いながら、**平和を希求する心**を発信し続けてまいります。



市制100周年

故きを温ね、行動を起こす

いよいよ本年5月20日に、本市は市制施行100周年を迎えます。

今日に至る那覇の発展は、多くの先達の知恵と経験の積み重ねであり、市民一人ひとりが那覇を想う心を紡いできた証です。戦後の復興や祖国復帰、中核市への移行など、先達のあゆみを振り返ると、改めて**那覇の発展に尽くしていきたい**という思いを強くしております。

今を生きる私たちは、次の100年に向けて確実な一歩が踏み出せるよう、新たな礎を築いていかなければなりません。その礎となるものが、県都として備えた「**求心力**」を活かすことではないかと考えます。

求心力があるところには、ヒトやモノが集い、出会い、新しいコトが生まれます。新たなコトは価値を生みだし、社会に変革をもたらす力となります。そこにヒトやモノが惹きつけられ、魅力が積み重なる。このプロセスにチャレンジしていく環境を整えていくことが、本市の求心力を力強く昇華させていくことにつながるものと考えております。

歴史に学び、そこから新しい知識を導くことを意味する「**温故知新**」という言葉があります。私はその言葉に、新たな行動を起こし挑戦していくという思いを重ね「**温故知新**」と表し、この節目の年を、未来に向かって**行動を起こす契機**としてまいります。

